

目次

- 6/20 本委員会を終えて
 - 1.農村計画委員会組織に関連して
 - 2.北海道大会に関連して
 - 3.小委員会の活動計画と予算計画に関連して
 - 4.農村計画委員会ホームページの管理に関連して
 - 5.韓国農村計画学会との交流に関連して
 - 6.次々回本委員会・学術研究会について
- 6/25 学術推進委員会速報
 - 1.2005 年度日本建築学会大会
 - 2.2003 年度小委員会活動成果報告
 - 3.2004 年度内部監査報告
 - 5.2005 年度予算配分方法について
 - 4.2005 年度から開始する特別研究委員会の公募
 - 6.学術推進委員会日程

6月20日 第1回本委員会（旅費無し）を終えて

・本委員会予算（年間 376,000 円）が厳しいため、第1回本委員会は、春季学術研究会と重ねて、旅費なしで開催した。今後、旅費あり本委員会に重ねて学術研究会を開催できるよう、予算や企画の工夫を検討していきたい。

・当日の議事録(案)は事務局伏見さんがつくってくれているのであわせて参照されたい。なお、本委員会を広く公開していくため農村計画メンバー（新旧本委員、小委員会委員、その他農村計画メールアドレスに登録されたメンバー）にメールで配信し、ホームページにも順次、掲載していきたい。

1.農村計画委員会組織に関連して

・現在の農村計画委員会は本委員会のもと、6小委員会 + 1WG と1研究会より構成されている。

- ・農村計画本委員会 委員長 = 伊藤、幹事 = 黒野・神吉（留任）、岡田・鎌田（新任）、委員は委員長、幹事を含み計 35 名
- ・農村計画情報交流小委員会 主査 = 後藤、幹事 = 神吉、ほか 8 名、計 10 名
- ・農村計画システム小委員会 主査 = 中島、ほか 9 名、計 10 名
- ・田園建築・景観デザイン小委員会 主査 = 月舘、ほか 13 名、計 14 名
- ・農村エコシステム小委員会 主査 = 沼野、ほか 14 名、計 15 名
- ・集住文化小委員会 主査 = 伴丈、幹事 = 川窪・後藤、ほか 11 名、計 14 名
- ・ラーバンデザイン小委員会 主査 = 鎌田、幹事 = 神田、ほか 13 名、計 15 名

- ・ラーバン出版 WG 主査 = 神田、幹事 = 鎌田・坂本、ほか 3 名、計 6 名
- ・環境教育研究会 主査 = 重村、幹事 = 河野・木下・山崎、ほか 11 名、計 15 名

・共通規定によれば、小委員会の設置期間は 4 年以内、WG と研究会は 2 年以内で、小委員会等には主査と幹事をおく、委員は 15 名以内で、委員の一部は公募する、委員の任期は 2 年以内だが設置期間内の重任は可、小委員会兼任数は 3 以内、次年度の事業計画・予算要求は 12 月末まで、前年度の事業報告・決算は 5 月末までに行う、IT を利用した情報公開をすすめる、とある。

委員長からのお願い

- ・本委員会では各小委員会の活動交換が重要なテーマであるから、各小委員会では主査、幹事の連携を密にし、欠席の場合でも活動内容の議論ができるよう、体制を整えていただきたい。
- ・また、委員の公募や、活動内容の公開をすすめていただきたい。

2.北海道大会に関連して

- ・農村計画部門の協議会・PD・学術講演、本委員会は以下のスケジュールになる。

	午前	昼	午後
8/29 日	9:15 民家・伝統建築 9:55 エコミュージアム 10:27 環境管理・環境学習 11:07OS：環境資産の保全継承		協議会 13:00 ~ 17:00 環境資産活用の多面的な展開方向 - 地域自立への挑戦
8/30 月	PD 9:00 ~ 12:00 住民自治の表現としての地域デザイン	第 2 回 本委員会	13:00 市町村合併 13:48 住民参加手法ワークショップ 14:44 都市農村交流グリーンツーリズム 15:32 集落景観 16:12PS：まちづくり地域づくり
8/31 火	9:00 生活空間 9:40 住空間と集落空間 10:36 土地利用 11:08 定住施策		13:00 地域施設 13:56 海外 1 14:52 海外 2

委員長からのお願い

- ・今年度は発表数が 90 題と激減したが、親密な、中身の濃い発表会を心がけ、次年度は昨年並みを目標に活性化を図りたいと願っている。そこで、主査幹事、本委員の方は時間の都合のつく限り発表会場に張りつき、発表者に適切な助言をお願いしたい。
- ・司会の方は、セッションの簡単な講評と一押し講演の推薦をお願いしたい。詳細は検討中だが、ホームページ上に掲載し、すぐれた講演を顕彰したいと考えている。
- ・協議会は「環境資産活用の多面的な展開方向 - 地域自立への挑戦」と題して、昨年度の「環境資産としての農山漁村」を踏まえ、環境資産活用事例をもとに議論を深める予定。

協議会資料集への投稿や環境資産活用リストアップ調査への協力をお願いしたい。締め切りはいずれも7月10日。

・協議会終了後、パネラーを囲んでの、農村計画協議会懇親会が予定されている。ご都合のつく方のご参加を期待したい。

日時：04年8月29日（日）18:00 - 20:00

場所：ピアケラー札幌開拓史 / サッポロファクトリー・レンガ館 1F

札幌市中央区北2条東4丁目 TEL：011-207-5959

URL: <http://www.sapporo-factory.co.jp/shops/4102.html>

会費：6000円（学生同額）

予約名「日本建築学会農村計画委員会」・予約数50名

アクセス・JR札幌駅より徒歩15分 / 地下鉄東西線「バスセンター前」より徒歩5分

3.小委員会の活動計画と予算計画に関連して

・各小委員会の活動計画と予算執行について（第1回本委員会議事録参照）、本委員会後、事務局と打ち合わせた結果、ご検討をお願いしたいことが生じた。

・今年度農村計画委員会予算・執行は以下の通りである。

本委員会	予算	376,000	執行	4,538
情報交流小委		165,000		119,628
システム小委		165,000		1,988
田園建築小委		165,000		1,988
エコシステム小委		165,000		1,988
集住文化小委		165,000		160,920
ラーバンデザイン小委		165,000		120,080

・注1 > 予算は基本部門と研究部門に分かれていて、出版企画が申請された場合は研究部門予算になるそうである。集住小委 とラーバンデザイン小委 は**出版企画**が出されているため、全体予算は **基本部門** 1,036,000円（本委員会・情報・システム・田園・エコ）
研究部門 330,000円（集住・ラーバン）

に分かれる。予算の振り替えや決算は部門ごとに行われ、部門をこえての予算の移動はできないそうである。また、小委員会が途中で出版企画を提出すると、その時点で、予算は研究部門に移動するそうである。

・注2 > 研究会（予算がつかない）は萌芽的調査研究活動を目的としている。**環境教育研究会**は出版企画などを目的にしているし、予算をつけられる小委員会にしてはどうか。

・注3 > **小委員会予算**は調査・企画・研究のための予算であって、基本は学会で委員会を開くなどに使うこと。見学会に使うことは共通規定に反し、厳禁だそう。会員、建築の分野に**有効に還元**されることを念頭に執行して欲しいとのこと。小委員会を地方で開催し、予算をそのために執行するのも望ましくないとの意見があるそう（伏見さんは理解してくれているが）。

4.農村計画委員会ホームページの管理に関連して

・本委員会、その後の打ち合わせで、当面、次の体制で管理・更新を行うことになった。

・本委員会下部にホームページ WG (仮称) を設置する。WG は、本委員会の承認事項なので、大会時・8/30の本委員会に諮り、実施する。

・主査および幹事に岡田、山崎義人の両氏をお願いし、委員に、遊佐敏彦(早稲田大後藤研)、柴田加奈子(西日本工大岡田研)の両氏をお願いする。

・メイリングはこれまで、農村計画メンバー・all-aij-rpc@ -

本委員会メンバー・aij-rpc@ -

主査幹事メンバー・syusa-kanji@ -

であったが、情報をすべて公開し、共有するため、本委員会メンバー・aij-rpc@ - を廃止し、原則として農村計画メンバー・all-aij-rpc@ - に一本化して、情報を流す。そのためにも、メールアドレスが変更した場合などは、速やかに all-aij-rpc@ - にアドレスの修正や登録をお願いしたい。

5.韓国農村計画学会との交流について

・本委員会で WG 立ち上げについて提案したが、その後、学会事務局より特定の国とだけの WG は望ましくないと示唆があり、WG の立ち上げは当面見送ろうと考えている。その代わりに、韓国農村計画学会との研究交流を本委員会の活動として位置づけていきたい(できれば小委員会が引き受けてくれるといいのだが)。

・なお、最終日程は以下の通り。研究交流会・懇親会には是非ご参加を。連絡は川嶋雅章氏・masaaki@isc.meiji.ac.jp まで。

1日目(7/12月): 川嶋・南・沼野

ソウル仁川空港 10:20発 仙台空港12:30着 仙台メディアテ - ク見学・他 **研究交流会(東北工大一番町ロビー 16:00~18:00)** **懇親会(海鮮屋 18:00~20:00)** 仙台市内泊(仙台ニューワールドホテル)

2日目(7/13火): 月舘・川嶋

仙台(東北自動車道路) 10:00江刺街並み見学 12:00遠野市昼食・千葉家・ふるさと村・HOPE計画街区見学 18:30釜石市泊(陸中海岸グランドホテル)

3日目(7/14水): 川嶋・南

釜石市 横手 湯沢 12:00金山町昼食・金山住宅、大堰、遊学の森、暮らし考房、四季の学校等視察 金山町泊(シェイネスハイム金山)

4日目(7/15木): 沼野・川嶋

金山町 新庄市・雪の里情報館、新庄駅 舟形町昼食・雪室 山形 郡山市泊(郡山ビューアネックスホテル)

5日目(7/16金): 川嶋・南

郡山市 9:00三春町・みはる一番館・桜中学校・住宅団地、三春の里: 田園生活館・昼食、紙漉の里など視察 会津若松市 大内宿泊(山形屋ほか)

6日目(7/17土): 伊藤・川嶋

大内宿 9:30昭和村(からむし織の里)視察 12:30館岩村(前沢地区: 茅葺き民家保存地区、湯ノ花のHOPE住宅)視察 会津若松市泊(東山温泉)

7日目(7/18日): 川嶋・南

会津若松 郡山・矢吹 福島空港13:05発 ソウル仁川空港15:35着

・研究交流会の発表は、崔長洵「韓国・太白山間ヨカンジブとツロンジブの住居空間構成の比較研究」、伊藤庸一「曲家保全から村づくり研究会へ」の2題、参加者はスライド数枚で研究紹介をする予定。

6.次々回本委員会・学術研究会について

・本委員会、小委員会の次年度の事業計画・予算要求が12月末日であり、そのころに次年度の大会についての検討が必要になること、学術推進委員会が12月7日に予定されていることから、次々回の本委員会（旅費あり、ただし全額支給は？）を12/7以降に開きたい。あわせて、学術研究会（秋季？冬季？）を開きたいと考えている。テーマは、「集住の知恵」の出版が11月予定なので集住の知恵に関連して、または近年の学位論文を話題に、または、「農村が日本をまもる？ 農村が日本をつくる？」などの連続テーマで。ご意見をお願いしたい。

6月25日学術推進委員会速報

1.2005年度日本建築学会大会

- ・近畿大学
- ・05年9月1日（木）～3日（土）
- ・プログラム編成会議 5月17日

2.2003年度小委員会活動成果報告

・<http://news-sv.aij.or.jp/academic/03seika/index.htm> に農村計画委員会をはじめ、273小委員会の活動成果が掲載されている。

3.2004年度内部監査報告

・会員数が漸減しているため、能力開発支援制度（生涯にわたる能力開発とキャリア形成を支援する）を活用した取り組みをすすめる必要があるとの観点から、能力開発コンテンツについて監査した結果が報告された。能力開発支援制度についてはパンフレットがあり、ホームページにも掲載されているので、参照されたい。おおむね、1参加学習型コンテンツとして講習会、シンポジウムなど、2情報提供型コンテンツとして、論文発表、原稿執筆、講習会講師、講演会司会など、3技術協力型コンテンツとして、各小委員会活動、論文査読、災害調査など、ほかに学会賞や優秀論文賞などの事業がある。今後、会員や関連分野のニーズを的確にとらえて、コンテンツの充実をさらにすすめるよう監査報告が示された。

- ・7月をめどに、昨年度における各委員会ごとの出版、講習会、シンポジウムなどの集計

一覧がつくられるとのこと。・・・委員長独り言：会員のみならず社会に向けた活動がますます重要視されているので、農村計画各小委員会のさらなる活動を期待したい。

4.2005 年度から開始する特別研究委員会の公募

・これまでに 36 の特別研究委員会が設置され、多大な成果を上げてきている。農村計画が母体委員会として参画している特別研究委員会には、「都市・地域景観」「アジア集住文化」「第 3 世界歴史都市・住宅」「21 世紀の計画系建築教育」「地球環境時代における住環境教育」がある。分野横断的研究、境界領域研究、新分野・新領域研究で、複数の部門、分野が参加する研究が原則だが、萌芽的研究の場合には少数の小規模プロジェクトチームもよいそうだ。予算は 100 万円を上限とし、小規模プロジェクトチームの場合は 50 万円が上限である。締め切りは 11 月 15 日、書式は <http://news-sv.aij.or.jp/academic/> からダウンロードできる。選考委員会は河野・翠川・高見沢・最上・竹下・芳村の各先生方。

・農村計画委員会が母体委員会になってすすみたい特別研究があれば、提案をお願いしたい。

5.2005 年度予算配分方法について

・各委員会予算 = <基礎額 30 万円 + 基本配分総額 + 補正額> で決まる。うち、基本配分総額は「直近 5 年間の大会発表題数」:「前年度の配分比率」:「直近 5 年間の新刊出版物点数」:「直近 5 年間の講習会・シンポジウムの回数・参加者数」 = 5 : 3 : 1 : 1 による。前年度に比べ大幅に予算減となる場合は補正もあるが、省略。

・要するに、大会発表数・出版・シンポジウムが予算に直接反映する。さらに学術推進委員会の予算に講習会・シンポジウム収益の 10 %、直営出版物売り上げの 1 %、委託出版物の印税収入の 5 % が加算されるので、対外的な活動の収益が重みを持っている。・・・

・委員長独り言：小委員会の活動をもっと適切に会員や社会に還元して欲しいし、成果を出版やシンポジウムなどの見える形にする努力を重ねないと、農村計画の存在が危ぶまれるし、少なくとも予算はさらに厳しくなる。外に向かった、成果の見える活動を期待したい。

6.学術推進委員会日程

10月7日

12月7日

1月7日

3月17-18日 小委員会の活動を集約して、全代議員 120 名に報告する

4月8日

5月11日 プログラム編成会議

(文責・伊藤庸一 itoitoyo@hotmail.com)